

## JSC/UK通信 (予告編) ~スリランカでの日々~

JSCのみなさん、こんにちは（初めまして、の方もいますね）。JSC/UK支部/York支局を（勝手に）開設した、JSC会員No.12の木村万里子です。3年9ヶ月間にわたった日本でのサポーター活動を一時休止し、2005年9月より、イギリス・ヨーク大学院に留学しています。

これから約1年間、JENの活動とも関わりがあり、私が学ぶ予定の戦後復興研究のことを中心にこちらでの様子を、不定期にお届けしたいと思いますので、宜しくお願いします。

といってもまだこちらでの日々も浅く、院の授業も始まっていないので、今回は番外編として、8月初めの2週間サポートさせていただいた、スリランカ・JENオフィスでの活動を報告致します。（この情報が少しでも、みんなの秋のイベント準備に役立つことを願って）

\*\*\*\*\*

### @サポート活動の様子@

8月4日早朝、自宅を出発。香港→バンコクと飛行機を乗り継いで（バンコクでは降機せず機内で待機）、スリランカ着は夜中の12時。ほぼ1日かけて初めての南アジアに足を踏み入れました。空港では1ヶ月ぶりにお会いするJENスタッフ・安部さんが迎えに来てくれました。感謝です。

翌朝から早速、JSCとしての活動を開始。といっても、コロンボ事務所長・愛さんはハンバントッタへ出張中、安部さんも毎週金曜日に開催されるNGO間の調整ミーティングへ出席のため不在。そこで、ローカルスタッフの通称グネさんに何をするか指示をもらいました。

私が行ったのは、ちょうどプロジェクトが終わった時期だったので、各プロジェクト（魚網作り、ココナツロープ作成、野菜栽培）の受益者に記入してもらったアンケートをまとめる作業が待ち受けてました。3つのプロジェクトで約400枚のアンケート！それをグネさんがシンハラ語から英語に翻訳したものを、私が日本語に翻訳して集計するという段取りになりました。早速、お仕事開始です。

結局、最終的には野菜栽培の集計はできなかったのですが、あとの2つのプロジェクトの集計を見る限りでは、ほぼ100%の受益者の方々がJENの行ったプロジェクトに満足し、更に感謝してくれていることを実感しました。津波の被害状況を見ると、家族を失った方は私が想像していたよりは今回の受益者の中にはそう多くない印象でしたが、それでもほとんどの人が家屋や仕事を失っていて、それも大変なストレスの原因になることがわかりました。JENの各プロジェクトでは、作業の傍らでカウンセラーによるカウンセリングが行われているので、受益者の中にはその点に感謝し、高く評価する方も多く、セルビアで見学させてもらった「心理社会事業」の様に、こういった活動がここでも広がるといいなあと思いました。

心理社会事業といえば、2週間に1度行われる Psychosocial Coordination Meeting に同行させてもらえる機会がありました。これは、スリランカで「心理社会事業」を行っている国際機関や各国NGOが集まって、お互いの活動報告や情報交換、活動地域や内容の調整を行うためのミーティングです。この日は20人くらい出席していました。カウンセラーの必要性とか、定義とか意見交換がなされていました。



(スリランカでは公的機関や民間でカウンセラーの資格を与えるということは無いみたいなので、トレーニングを特に受けてない人でもカウンセリングのような事をしている様です) この分野はまだまだ整備が必要で、各NGOが活動を重ねる中で、定義や評価方法など確立されていくのかな? と思いました。そうそう、「LankaSwim」というNGOが、海や水の恐怖を持っている人たちへのサポートをしているのを聞いて、そういった「心理社会事業」もあるのね、とちょっと驚きました。



左から、愛さん、グネさん、プリヤダルシャニーさん

JEN/コロンボ事務所は、8時半～4時半までが(基本的な)勤務時間です。朝が早いのはこちらの文化みたいで(気候のせいかな?)、銀行なんかも8時くらいからやっています。夕方の時間が有効に使えるのは、私個人としては嬉しいな(でもハンバントッタのホテルでは、6時半にモーニングティー、それも超甘いのがサーブされたのには参りましたが)。

8時半には朝食を兼ねてのスタッフミーティング、お昼はローカルスタッフ・プリヤダルシャニーさんの作るおいしいスリランカ料理!(後述します)あとはひたすらみなさん、

個々のお仕事に集中しています。もちろんJEN東京事務所と同じように、時々ティーブレイク(紅茶党の私としては、スリランカティー最高です!)や、楽しい会話を交えながらの作業です。

滞在最後の3日間は、ハンバントッタに移動し、現地でサポートする機会を得ました。ハンバントッタは内陸を通れば5時間、海沿いを行くと7時間の距離です。地図で見ると大した距離では無さそうですが、実際行って見た感想は「結構遠い」。途中、田園風景あり、雑多な町並みあり、コロンボとはまた違った雰囲気を楽しみました。



ハンバントッタ事務所に着くと、早速、JENが支援しているキリンダ村の仮設住宅で火災の被害にあわれた方々への緊急物資を届けるために、再び移動しました。ハンバントッタ州自体もとても広く、JENの事業地はあちこちに点在しています。そして、1時間くらいかけてキリンダ村へ到着。事前にニーズ調査して購入したもの(バケツ・蚊帳やココナツスクレーパー・子ども用の文房具など生活必需品)を直接お渡ししました。その時の様子は、JENホームページのスリランカ速報でご確認下さい。



FAXの調子が悪く、電話線を結びなおす?!クナシリさん(この後、FAX復活しました。不思議です)

翌日の午前中は、エクセルを使ってのいくつかの書類作成。NGOの支援現場というと肉体労働?が容易に想像されますが(私だけ?)、こういった事務作業も必要な点は、東京事務所と変わらないですね。あとはハンバントッタ事務所長・クナシリさんのお供で、事務所の光熱費を払いに町の中心地へ出ました。ここは日曜日の朝市に来て津波の被害にあった人も多く、また野生動物を見に来た日本人の団体が被害にあった場所も近いようです。今は、海沿いに日本でいうところの屋台みたいな趣の市場がたっていました。

午後は、魚網作りのための材料が各パーツ(ロープ、錘、カッターなど)ごとに届くので、それを仕分けして1人分のパッケージを作る作業をしました。JEN事務所の近くに住む若い姉弟(彼らは英語教師だった父親を津波で亡くしています)とオランダ人夫妻が手伝ってくれたので、4時間かけて約50人分のパッケージを作ることができました。



左:  
みんな総出で仕分け作業中  
右:  
仕分け完了。この後、離れた所にある倉庫へ運びました。  
現場は体力勝負?

私は今回は事業地での実際の活動を見る機会はありませんでしたが、スタディーツアーに参加されると受益者から直接話を聞くこともできるだろうし、きっと貴重な体験ができると思います(私も2年前にセルビア・モンテネグロへのスタツアに参加して、いろいろ学ぶことができました)

現地スタッフの方々は皆さんとても気さくで、本当にいろいろお世話になりました。たった2週間でしたが、いろいろな経験をさせて頂き、本当に感謝しています。



ハンバントッタ村の中心地区(左手奥にお店が軒を連ねてました)

## @スリランカでの日々@

スリランカは驚いたことに、同じ時期の日本より少し気温が低く、朝晩は割りと過ごしやすかったです。どこへ行っても、ファンかエアコンが効いていて快適でした。



コロombo滞在中は、JEN事務所から徒歩で25分くらいのところにある海沿いのホテルを利用しました。約2千円でトイレ・ホットシャワー・冷蔵庫・衛星放送テレビ付きのシングルルーム、清潔なホテルで、かなり快適な毎日でした。海からの風も心地よく、夕日が沈むのをぼーっと眺めたり、ちょっと贅沢な時間だったかもしれません。

← 津波が西から来たらコロomboも危なかったでしょうね  
コロombo市内は徒歩で観光するのは難しいので、東南アジア

というトゥクトゥクのような自動三輪？を利用するのが便利です。

こちらではスリーウィラーと言います。道路を歩いていると、運転手が「乗らないかい？」と必ず声をかけてきます。

止まっているのよりは、流しのを拾うのがぼったくられないコツとか。値段は交渉次第なので、日に日にたくましくなってしまう、日本に帰国してからもそのままの勢いで、航空会社にクレームを付けてしまいました（スーツケースが破損したのです）。



気になる食事ですが、スリランカでは日本と同じような野菜（おくらとかインゲンとか）も食されているので、辛いのが苦手であれば食生活はまあ満足できると思います。それでも基本的に（というか全て）カレー味なので、それが続くとあっさりしたものが食べたくなるでしょうね。お土産にそうめん+つゆを持参したところ、神様みたいに感謝されてしまいました（笑）。中華や日本食レストランや出前も結構充実してました（コロombo市内の話）。

（← プリヤダルシャニーさんの手料理。絶品です！）

滞在中に、スリランカの現役外務大臣が暗殺される事件がありました。ちょうど週末にかかるところでしたが、人々は普段通りに買い物を楽しんだりしていました。ところどころで軍人を見かけたりはしましたが。

スリランカは初めてでしたが、居心地の良い所だと思います。スリランカ人は基本的には明るくフレンドリー、正直って感じの印象です（もちろん例外はあるのですが、少なくとも今回出会った人たちは皆そうでした）。車の通行も日本と同じだし、郊外に出れば田園地帯の風景は日本のそれと変わらないです。日本にも好意的だし、コロomboなら英語も割りと通じます。私は行けなかったのですが、世界遺産の仏教遺跡も点在していて、旅先としても魅力的な場所だと思います。機会があったら、みなさんも是非体験してみてくださいね。